

話題の
最新刊



認知症の人たちの
声
小さくて大きなひと言

監修 永田久美子

こんなにたくさんの「私の言葉」が集まりました——。

実は、時計が読めないの／ぼくは壊れてく。助けて／俺はもういいよ／
何でおれのことを勝手に決めるんだ！／今が大切だから忘れないよ／
私、ちょっと聞いただけやのに、なんてみんな変な顔しはるの？／
先生、俺なんか悪いことしたんかな／給料出たから飲みに行こうや／
オレノ、スキナヒト／伏せろ！ 敵が来た！／明日は会議あるのかな／
そんなへマ、俺はしない／私を家に送って／私、がんばる！ 帰っていいよ／
こんな状態で生きていたくない／私はもう白衣を着るわけにはいきません／
母親として何もできなくなってしまうのが悲しい／こんなことさせてごめんよ／
悪いことをしたつもりはないけど、それが悪いことだったら謝ります etc.

監修 永田久美子 Nagata Kumiko
認知症介護研究・研修東京センター研究部長

発行・株式会社harunosora
A5判・並製・160頁・2色刷
定価・1,700円〔税別〕
ISBN978-4-9907364-3-9 C3036



本邦初！
認知症の
人たちの
声を集めた
画期的エッセイ。

認知症の人が
秘めていた
不安、哀しみ、
矜持、愛、
思いやり……。

「認知症の方からボロツとこぼれ落ちた『びと』言、が刺さりました」
「僕らはこの人たちが投げたボールをぜんぶ受け止めてるだろうか？」
「心はなくしてない。いや、感性は増しとると思えた」
「明日からちよつとだけ母に優しくできそうな気がします……」
「利用者さんの『声』に耳を澄ますことの大切さを知りました」
「認知症の方たちの哀しみに1ミリでも近づきたい、そう思った」
「今夜は、父の思い出話をたっぷり聴きたくなりました」

ぼくは壊れてく。助けて。

頁見本

2012年夏、夫の希望で岩手の私の実家へ帰省することになりました。パーキンソン症状が進むなか、新鮮緑での二人旅。これが夫との最後の旅行となりました。

田舎の人情と美味しい空気に和んでくつろいでいたある朝、それは起きました。リビングのいすに縮こまって、いつになく不安そうな表情の夫。「どうしたの？」と声をかけると、「ほくは壊れて。収拾がつかない……人間がうろくらいい次から次へ現れて消えない……。おまじないが効かなくなった。助けて」。レビティ体型認知症による幻視です。抱きしめてあげるしかありませんでした。二人涙を流して、やっと出ないうちに夫が初めの肩を震わせて泣きました。私はかける言葉がなく、忍耐強い夫が初めての肩を震わせて泣きました。二人涙を流して、やっと出ないうちに夫が初めの肩を震わせて泣きました。二人涙を流して、やっと出ないうちに夫が初めの肩を震わせて泣きました。

た言葉は「大丈夫だよ。あなたがどんな姿になっても、あなたに変わりはなく、いつもそばにいるからね……」。確かな根拠があったわけではなかったけれど、なんとか切り抜けてみせようという強い覚悟が生まれました。同時に、「神様、私のいのちを夫に分けてください」と祈り続けました。

金子節子
『愛と死の間』

ご注文は、株式会社harunosora宛てFAXまたはMailにて承っております。

お申込み書

FAX044-330-1744

kabu.harunosora@gmail.com

ご注文	認知症の人たちの小さくて大きなひと言 著者・関係者割引価格1,469円 [税込]	() 部
お名前		
お届け先住所・施設名	〒	
ご連絡先TEL		
ご連絡先Mail		

送料無料！お振込手数料無料！

お届け先が職場の場合、施設名・所属先などを必ずご記入くださいませ。

ご記入いただいたお客様の個人情報は、本商品の発送をお届けする目的に限って使用いたします。

【お問合せ】株式会社harunosora ●TEL090-6796-8989 [尾崎] ●FAX044-330-1744 ●kabu.harunosora@gmail.com